

総務省

S O U M U S H O

皆さまの暮らし応援情報誌



MIC

Ministry of
Internal Affairs and
Communications

7

月号

2018 July

Vol.211

[特集]

未来をつくる ICT

7月の花:キキョウ
花言葉は
「永遠の愛」「誠実」
「清楚」など

地方のかがやき

「高校生レストランの町」から
人と地域が活気あふれる
「美食のまち、多気」へ

三重県 | 多気町

MIC MONTHLY MAGAZINE





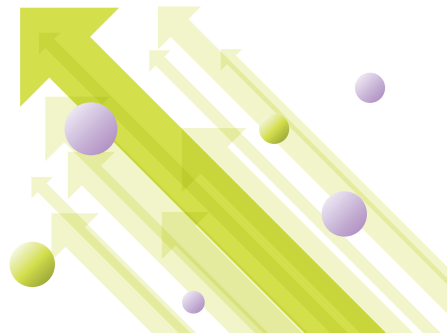
発行：総務省
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
(中央合同庁舎第2号館)
Tel. 03-5253-5111 (代表)

7

Vol.211 | 2018 July

CONTENTS

- 23 **世界にはばたく総務省**
坂井総務副大臣のベトナムおよびミャンマーへの訪問
- 22 **MIC NEWS 05**
平成30年度「電波の日・情報通信月間」表彰イベントが行われました
- 21 **MIC NEWS 04**
戸籍謄本の提出が必要な手続が見直されます！
- 20 **MIC NEWS 03**
「新4K8K衛星放送開始半年前セレモニー」が開催されました
- 19 **MIC NEWS 02**
「情報通信白書 for Kids」サイトをリニューアルしました
- 18 **MIC NEWS 01**
「テレワーク・デイズ」に参加しましょう！
- 14 **三重県多気町 地方のかがやき**
- 04 **特集 未来をつくるICT**
- 06 ICTにより乗り越えるべき課題
① 静かなる有事—2040年の日本の構造変化—
- 07 ICTによるアプローチが必要な長期的な課題
- 08 未来をつかむTECH戦略
① 変革実行の8カ条「MOVE FAST」
—変革のためのマインドチェンジ—
- 09 ICTがもたらす未来の姿—人づくり、地域づくり、産業づくり—
- 12 ③ 未来をつかむTECH戦略「政策パッケージ」



今月の
総務省
Monthly MIC

お役立ち
ツール
Useful tool

「デンパ君のピピッ! おもしろ電波教室」



「電波ってなに?」と子どもに聞かれたら、皆さんはどのように答えますか?
「テレビやラジオを楽しんだり、スマホで遠くの人と話すために必要なものだよ」と電波の役割を伝えても良いでしょう。あるいは、「電波は1秒間で約30万キロメートル、地球を約7回り半するほどの速さで伝わるんだよ」とその性質を伝えても良いかもしれません。
このように電波についての情報を分かり

やすく紹介しているのが、総務省が運営するウェブサイト「デンパ君のピピッ! おもしろ電波教室」です。このサイトではキャラクターのデンパ君がナビゲーターとなって、学校の授業スタイルで電波について楽しく学ぶことができます。

電波は私たちの暮らしに欠かせないもの。だからこそ正しく知り、正しいルールで利用できるよう、ぜひこのサイトをご活用ください。

●デンパ君のピピッ! おもしろ電波教室 <http://www.tele.soumu.go.jp/kids/top.htm>

なじみのものでもこんなに違う! 日本全国「特色」MAP

今月のテーマ
七夕

「星祭り」「笹の節句」とも呼ばれる七夕。もともとは宮中行事でしたが、江戸時代には庶民も楽しむ一般行事へと変化しました。地域によってはお盆行事と合わさるなど、独特の風習として残されているところもあるようです。

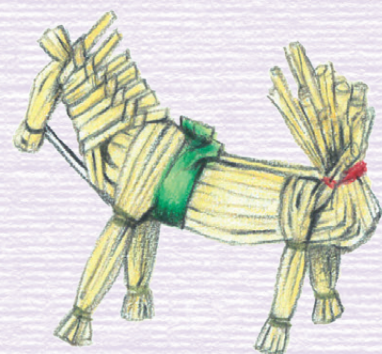


北海道～ローソクもらい
7月7日または8月7日の夜、ちょうちんを持った子どもたちが地域に伝わる囃子歌を歌いながら近隣の家を訪れ、ローソクとお菓子をもらう。お盆の時期に灯す万灯(まんどう)の材料をもらい集めることから始まったと伝えられている。



富山～尾山七夕流し
黒部市尾山地区で100年以上前から途絶えることなく行われる伝統行事。8月7日の夜、地区を流れる幅1メートルの泉川に子どもたちが作った紙製の姉妹人形や七夕船を、笛や大鼓の囃子とともに押し流していく。この行事によって、心身の汚れや災厄を流すとされる。

七夕馬
旧暦の七夕の日、ワラやマコモで馬の人形を作り、翌日に川に流す。宮城や福島(一部関東も含む)などの主に農業が盛んな地域に伝わる。お盆と時期が重なるため、先祖を迎える乗り物として作られたと伝えられている。



長野～七夕人形
ほぼ等身大の板製の人形に着物を着せて家の軒先につるすなど、松本地方に江戸時代から伝わる風習。前日(8月6日)に飾りつけ、翌日には片づけられる。風で厄を払い、子どもの健やかな成長を願うなどの意味が込められている。



福岡～七夕スイカ
8月7日、7歳の子どもがいる家庭に、つるつきで15kg以上の巨大なスイカを贈る、筑後地方に伝わる風習。「スイカのように丸々と、つるのように伸び伸びと育ってほしい」との願いが込められている。



古くから伝わる風習は、1か月遅れの8月7日(旧暦)に行われることが多い。

テクノロジーの今後の見通し

2050

宇宙への進出(2050年頃)

- 宇宙旅行の普及
- 宇宙エレベータの実現

AI(人工知能)が人を超える(シンギュラリティ*) (2045年頃)

- AIが人間の代わりに知的労働する時代に
- ※ 転換点

2040

AIが人の代役となる(2025年頃~)

- 民事調停の調停案をAIが提示
- 監督の演出意図を理解するバーチャル俳優がデビュー
- 歩行者と車がやりとりし、信号が事実上不要に
- AI秘書やAI教師を登用
- 日本の仕事の49%がロボット・AIで代替可能に

未来をつくる

特集 ICT to create the future

ICT

2020年以降、人口減少や少子化・高齢化が一段と本格化し、これに伴い、日本は、経済や産業・地域などあらゆる面で厳しい環境に直面する事態が予想されています。ICTはこれらの厳しい環境を乗り越え、変革を進めるための「切り札」として、未来を切り開くことが期待されています。

総務省では、「IoT新時代の未来づくり検討委員会」を設置し、2030年代に訪れるテクノロジーの進展を見据えたICT施策の在り方について検討を行っています。また、この検討と連動する形で、未来について斬新なアイデアと知恵を結集するため、将来の行政の中核を担う若手職員(平均年齢29歳)による「未来デザインチーム」を立ち上げ、2030~2040年頃の実現したい未来社会のイメージについて議論しました。

本特集では厳しい環境を乗り越えるために取り組むべきICT政策の在り方について、総務省がどう考えているのか、その一部をご紹介します。

みなさんは、ICTがどのような未来をつくると考えますか？

これを機会に、ICTが切り開く未来の姿について、一緒に考えてみませんか？

人と機械が共存・協調する社会(2030~2040年頃)

- 体内へのデバイス埋め込みが実現
- 着るだけで体調が分かる衣服が普及
- 空飛ぶタクシーが増加
- ドローンを使った配送が拡大
- 自分の脳で考えている内容を目や耳を介さずに他人の脳に伝達

2030

技術で言葉の壁が消滅(2025年頃)

- 言語の壁を越えたコミュニケーション
- 動物と会話できる装置が実現

人体とコンピュータの融合(2022~2027年頃)

- コンタクトレンズ型ディスプレイ
- 血管内を移動する微小な医療ロボ
- 頭の中で念じるだけでコンピュータ操作
- 装備型装置で身体能力を補強(消防士らが視覚や嗅覚などを増強させるなど)

ロボットの社会進出(2020年頃~)

- いたわりや手加減のできるロボットが介護や調理、掃除で活躍
- ロボットが買い物を代行
- 工事現場で知能ロボットが作業

2020

(文部科学省科学技術政策研究所「第9回デルファイ調査報告書」(平成22年3月)、日本経済新聞「ニッポンの革新力 AI・IoT 変わる世界」(平成29年11月1日)等を基に総務省作成)

ここでは、ICTが乗り越えるべき将来の課題について見ていきます。日本は、「静かなる有事」と呼ばれる構造変化が進行することにより、様々な局面で厳しい環境に直面する事態が予想されています。「静かなる有事」をむしろチャンスと捉え、アグレッシブなICT導入により変革を実行していくことが必要となっています。

ICTにより乗り越えるべき課題

② ICTによるアプローチが必要な長期的な課題

「静かなる有事」をはじめとする、より長期的な課題に対応するためのICT政策が新たに必要となっています。

これまでのICT政策は主として2020年をターゲットとしてきたが、より長期を展望した場合に、様々な局面でさらに困難となるハードルが待ち受けており、現時点から、これらに立ち向かうICTによる有効な手だてを検討し、推進することが必要。



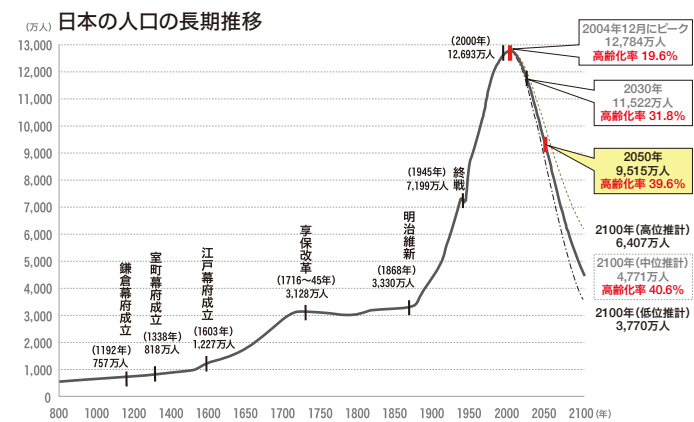
① 静かなる有事—2040年の日本の構造変化—

人口減少、高齢化、経済成長率の低下という「静かなる有事」が進行し、2040年頃までには、日本は、今よりも厳しい環境に直面することが予想されます。

人口

- 日本の人口は2008年(1.28億人)をピークに減少し、今後減少幅が拡大
- 2040年には人口が約1億1千万人を下回り、毎年100万人近く減少

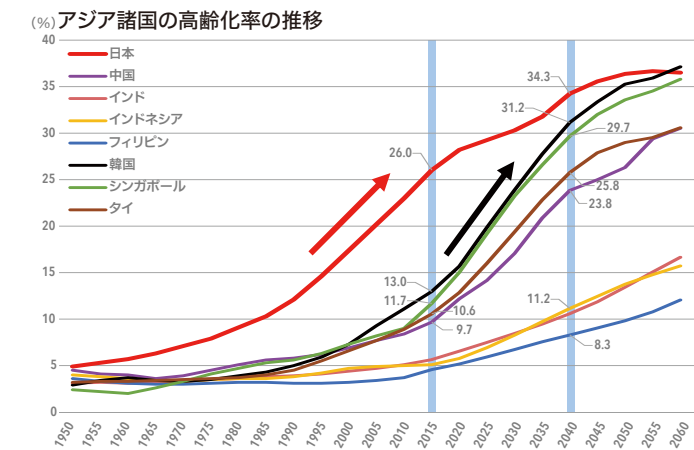
(出典)国土交通省国土審議会長期展望委員会(第2回)(2010年12月17日)「国土の長期展望に向けた検討の方向性について」より



高齢化

- 2042年には団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢者人口がピークに
- アジア諸国より約20年先行して超高齢化を経験し、未知の世界へ突入

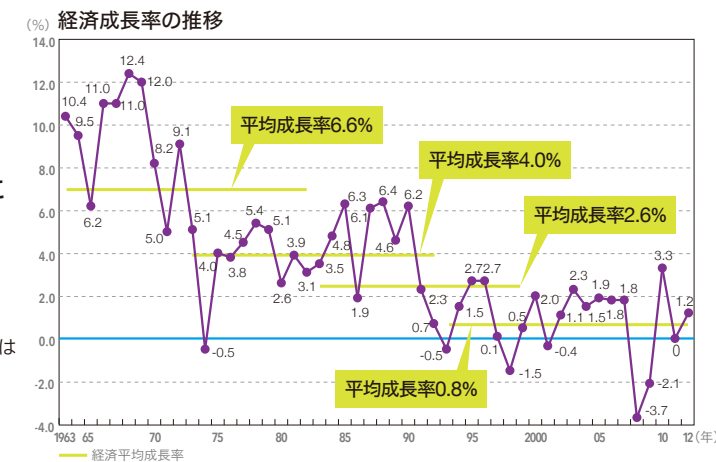
(出典)総務省「自治体戦略2040構想研究会(第1回)」事務局提出資料



経済

- 高度経済成長期を経て現代へと移り変わるにつれて経済成長率が段階的に低下 (平均成長率6.6%⇒4.0%⇒2.6%⇒0.8%)

注)1 値は年度ベース。1980年度以前は1990年基準(68SNA)、1981~1994年度は2000年基準(93SNA)、1995年度以降は2005年基準(93SNA)に基づく。
 注)2 1995年度以降の値については2013年1~3月期四半期別GDP速報(2013年5月16日公表)による。
 資料)内閣府「国民経済計算」より総務省作成



総務省は、「静かなる有事」をチャンスと捉え、アグレッシブなICT導入により「変革の実行」に繋ぐための改革プラン「未来をつかむTECH戦略」をまとめています。本年4月、その中間取りまとめを公表しました。ここでは、厳しい環境を乗り越えるためのICT政策の在り方について、総務省がどう考えているのか、「未来をつかむTECH戦略」の主な内容についてご紹介いたします。

未来をつかむTECH戦略

② ICTがつくる未来の姿—人づくり、地域づくり、産業づくり—

「人づくり」、「地域づくり」、「産業づくり」の観点から、2030年代に実現したい未来の姿を示しました。

人づくり「インクルーシブ」

年齢・性別・障害の有無・国籍・所得などに関わりなく、誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちつつ、豊かな人生を享受

働く人 職場スイッチ



複数の仕事に就き、時間の切り売りで個人の能力を最大限発揮。家でもカフェでも、スイッチ1つで切り替わるバーチャル個室で効率サポート。

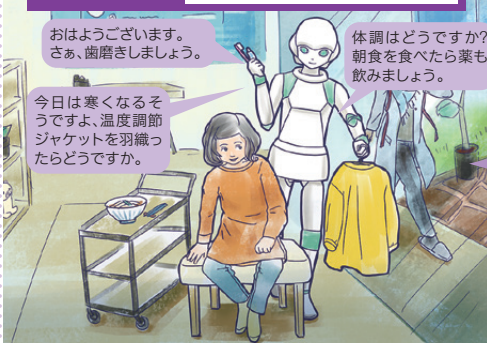
高齢者 健康100年ボディ



ハイキングに集まったのは約80~100歳。皆元気一杯だが、身体の一部に補助アームやARグラスなどを装備。

人生100年、頭や身体の衰えはハイテクでカバーし、元気に活躍

ロボット お節介ロボット



目覚め・歯磨き・着替え・朝食などの忙しい朝支度をスムーズに準備させてくれるお節介な手強いロボット。

ロボットも家族の一員、人間とロボットが、会話や生活サポートを通じ共生

仕事は複業、働く場所や組織に捉われずマルチな才能を発揮

読み・書き・デジタル、世界の人材と戦う武器を幼少期から装備

子ども パノラマ教室



壁や天井、机がディスプレイになり、プログラミングで作成したアプリのデモも表示。VRではいろいろな地域・時代の体験学習が可能に。

自分の選んだメニューで、会議の内容を翻訳して自在にコミュニケーション

障害者 あらゆる翻訳



目や耳が不自由でも、外国語が苦手でも、自分の選んだメニューで会議の内容を翻訳して自在に伝えるシステム。

① 変革実行の8カ条「MOVE FAST」—変革のためのマインドチェンジ—

「変革の実行」のためには、日本の社会全体のマインドチェンジを促していくことも必要です。「未来をつかむTECH戦略」では、社会全体で変えていくべき考え方などを8項目にまとめ、「MOVE FAST」と銘打って打ち出しました。

MOONSHOT

実現したい未来の姿(ムーンショット)を設定し、そこから逆算して対策を立案する。

- 実現したい未来の姿について、現在の延長線ではない非連続で高めのムーンショットを設定する。
- そこから逆算し、現時点から社会全体で克服すべき課題や政策の工程表を絞り込んで立案する。

FOCUS

持続可能性を重視し、選択と集中を通じて、ムダなものは止める決断をする。

- 変革期でのサステナビリティ(持続可能性)を考慮し、産業のコアビジネス集中、地域のコンパクト化などを図る。
- 止めるものをリスト化し、費用対効果や副作用を考慮した上で、大胆にスクラップを断行する。

OPPORTUNITY

芽生えた機会を逃さず、柔軟・即応のアプローチで挑戦する社会風土にする。

- 完璧な準備を求めずアジャイル(柔軟・即応的)なアプローチを許容し、「まずはやってみる」の挑戦を社会的に支援する。
- 新技術への過剰なゼロリスクを要求せず、導入のメリット・リスク・コストを客観的・冷静に評価する。

AGGRESSIVE

人口減・高齢化を迎える中で、あらゆる分野にアグレッシブにICTを導入する。

- xTECH(あらゆる分野でのICT導入)を行動原則とし、業務効率・生産性の改善や利便性の向上を図る。
- 人口減の進行を念頭に、ためらわずにAIやロボットの導入による自動化・無人化を進める。

VALUE

評価基準を量(ボリューム)から質(QoL)に転換し、成熟国家の価値観へ脱皮する。

- GDPや人口など規模を追う指標より、一人当たりGDP・幸福度などQoLを表す指標を重視する。
- QoLの参照基準とする指標群を見える化し、国際社会の中で日本が担う役割を明確化する。

SUPERDIVERSITY

年齢区分などによる画一化を改め、誰でも希望に応じて活躍できる制度にする。

- 65歳以上を一律に高齢者と見る傾向を見直し、人生100年時代に見合う公的制度に移行する。
- 働き方改革、学び・働き直し、複属、多国籍雇用など、ダイバシティに富む生き方を支える環境を創る。

ECONOMICS

生産性を高め所得を増やすとともに、国内外の需要を徹底的に掘り起こす。

- 労働投入減を織り込み、資本による代替を進めつつ、年率2%超の生産性向上を目指す。
- 高齢者の投資促進、直接投資の呼び込み、外需の開拓など、需要喚起のターゲット化を図る。

TRUST

進展する技術の制御可能性、社会倫理、濫用回避などを確立し、信頼を高める。

- 導入技術のブラックボックス化を回避し、制御可能性、社会倫理、リスクなどの評価システムを確立する。
- サイバーセキュリティ対策を徹底し、技術の濫用を防ぐための分析と回避策によりリスクを最小化する。

② ICTがつくる未来の姿—人づくり、地域づくり、産業づくり—

産業づくり「トランスフォーム」

設計の変更を前提とした柔軟・即応のアプローチにより、
技術革新や市場環境の変化に順応して発展

金融・決済 らくらくマネー

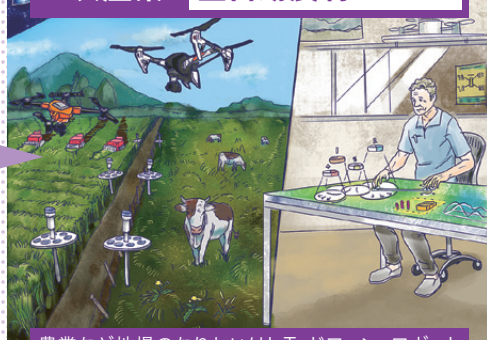


支払いは完全キャッシュレス。購買履歴の作成や信用データの形成も自動化でき、家計管理・借入れや各種申告にも簡単に活用。

買い物は完全キャッシュレス、購買履歴の作成や信用データの形成も自動化でき金融サービスが便利に

農業はロボット耕作、配達はドローンで自動化
人手不足・高齢化を解消

一次産業 全自動農村



農業など地場のなりわいはIoT・ドローン・ロボットが担い、人手不足や高齢者の負担を解消。生産性も高まり、景観も維持。

サービス業 三つ星マシン



各地の素材を使いつ、個人の健康状態も加味しながら、家庭や有名レストランの味をAIが正確かつ高速で再現。

家庭や有名レストランの味をAIが正確かつ高速で再現する料理マシンが登場

データを買って我が家の3Dプリンタで製造
匠の技も簡単に再現

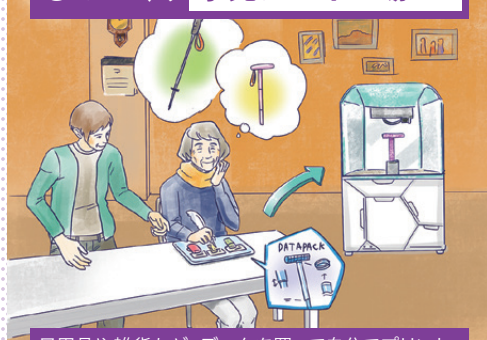
流通・運輸 えられる配達



ドローンが空から、ライドシェアの車が玄関に、スーパーが丸ごと近所に。色々な無人配達をネットで選べ、買い物難民も解消。

ドローンや自動運転の無人配達を自由に選び、暮らしに必要な買い物を楽々調達

ものづくり 手元にマイ工場



日用品や雑貨など、データを買って自分でプリント。日頃学んだプログラミングで世界に一つだけのデザインに加工。

地域づくり「コネクティッド」

地域資源を集約・活用したコンパクト化と遠隔利用が可能なネットワーク化により、
人口減でもつながったコミュニティを維持し、新たな絆を創出

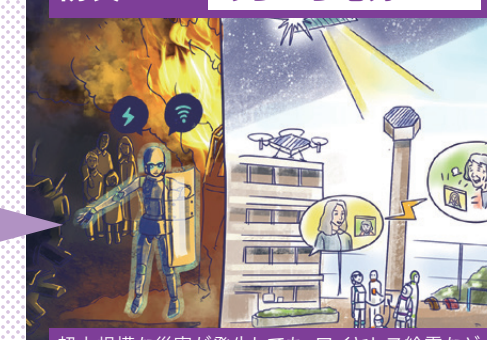
自治体 どこでも手続



24時間受付のネット窓口が当たり前となり、画面を触ると現れる忠実で有能な執事ロボが、お役所イメージを刷新。

24時間ネットで受付
忠実で有能な執事ロボが
お役所イメージを刷新

防災 あちこち電力



超大規模な災害が発生しても、ワイヤレス給電などあちこちで電力確保。決して途切れない通信で、避難誘導や安否確認に威力発揮。

大災害が発生してもワイヤレス給電などで、途切れないネットワークを維持

観光 ツーリズム 時空メガネ

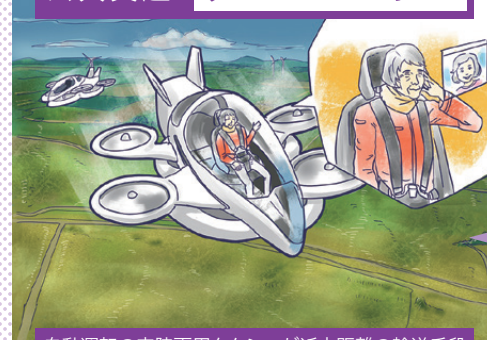


歴史のある観光名所など、ARで好きな時代の風景を再現。音や香りなども再現することで、より感動的な体験に。

ARで好きな時代を再現
音や香りなども再現することで、より感動的な体験に

医療が24時間見守り、
病気は予防・早期発見で
治療も超進化

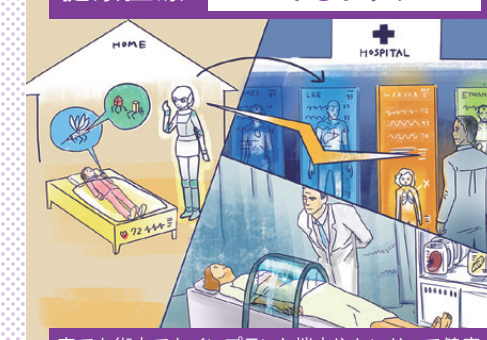
公共交通 クルマヒコーキ



自動運転の空陸両用タクシーが近距離の輸送手段に成長。過疎地や高齢者・障害者の移動手段となり、事故や渋滞も大幅解消。

自動運転の空陸両用タクシーが過疎地や高齢者の移動手段となり事故や渋滞も大幅解消

健康医療 いつでもドクター



家でも街中でもインプラント端末やセンサーで健康管理をサポート。異変があればAIで簡単な診断を行い、専門医が早期に超低侵襲(苦痛の少ない)治療。

総務省は、実現したい未来の姿を展望しつつ、そこから逆算する形で、IoT・AI・ロボットなどのイノベーションの社会実装や、皆さまが豊かな生活を享受できる社会の実現に向け、今後、必要な施策を着実に講じていきます。

未来をつかむTECH戦略

③「未来をつかむTECH戦略」政策パッケージ

「ICTがつくる未来の姿」を踏まえ、そこから逆算する形で、政策パッケージを示しました。

(2030年代の社会像実現に向けた当面の対応策)

「変革の実行」に向けた具体的な施策メニュー例

I インクルージョン

スマートインクルージョン構想

- **地域ICTクラブなどを中心とした新たな地域コミュニティの創造**
地域で子ども・学生、社会人、高齢者などがプログラミングなどのICT技術を楽しく学び合う仕組みの構築 など
- **就業構造の変化に対応した成長産業への人材シフトに向けた投資**
優秀な技能などを有する児童・生徒の成功体験や起業などにつながるサポート体制の構築 など
- **高齢者などがICT機器を活用し、より豊かな生活を送ることができるための環境整備**
高齢者などがICT機器の操作などについて気軽に相談できるICT活用推進委員(仮称)制度の創設
- **年齢、障害の有無などを問わずICT機器の活用により社会参画できる環境整備**
高齢者などの知識・経験などをIoTなどを用いてデータ化し、継承する取組を支援 など
- **当事者参加型の高齢者、障害者などを支援する先端技術の開発(情報アクセシビリティツール、BMIなど)**
障害者などの日常生活・就労支援などに有用な技術開発、障害当事者参加型のICT機器・サービス開発の支援

活用重点プロジェクト	インフラ横断プロジェクト
<p>世代を超えてプログラミングなどを学びあう「地域ICTクラブ-PJ」</p> <p>障害者・高齢者が豊かな生活を送れる「元気チャレンジ創造-PJ」</p>	<p>データ主導時代を支える世界最先端ネットワーク環境の整備</p> <p>ワイヤレス成長戦略パッケージ</p> <p>人材を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 周波数カタリスト(触媒)の養成 ■ 長期的標準化・国際的な周波数確保の人材 ■ IoTジェネラリストの育成 ■ 電波人材偏在の解消(まちづくり計画などへの参画など) ■ 人材育成・裾野の拡大のための取組 ■ 社会コンセンサスづくり <p>市場を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 長期的標準化・国際的な周波数確保(再掲) ■ 電波インフラのロードマップ ■ グローバル展開 ■ 技術革新を踏まえた迅速な制度整備 ■ 条件不利地域での電波インフラ活用 ■ 社会インフラとして機能するための環境整備 <p>技術を創る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的に有用な研究開発課題への対応 ■ オープンイノベーションへの挑戦支援 ■ 新たなファンディング手法 ■ 新たなトライアル環境提供 ■ 周波数共用に向けた電波モニタリング、動的割当て ■ 高い信頼性を備えたワイヤレス環境
<p>コンパクト化したデータ利活用型の「ネットワーク・スマートシティ-PJ」</p> <p>生活直結サービスをしっかり確保する「遠隔・自動化-PJ」</p>	<p>IoTへの信頼を支える「IoTセキュリティ総合対策」</p> <p>セキュリティ人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 実践的なサイバー防御演習 国の行政機関、地方自治体、独立行政法人および重要インフラ事業者などを対象とした演習(CYDER) ■ 2020年東京大会に向けた人材育成 大会関連組織のセキュリティ担当者などを対象とした演習(サイバーコロッセオ) ■ 若手人材の育成 若手セキュリティイノベーターの育成 <p>地域を支えるセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スマートシティへの対応 スマートシティのセキュリティの強化 ■ 公衆無線LAN対応 セキュアな公衆無線LAN環境の実現に向けた取組を推進 <p>産業を支えるサイバーセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ IoT機器の脆弱性対策 IoT機器に関する脆弱性対策に関する実施体制の整備 ■ セキュリティ投資の促進 一定のサイバーセキュリティ対策が講じられたIoT投資に対する税制優遇措置 ■ セキュリティ対策の開示促進 企業のセキュリティ対策に係る情報開示に関するガイドラインの策定
<p>C コネクティッド</p> <p>デジタルファースト・ワンストップなどを徹底するデジタルガバメントやデータ利活用などの推進 デジタルファースト・ワンスオンリー・ワンストップを基本とするデジタルガバメントを推進、自治体職員のリテラシー向上や外部人材の活用推進 など</p> <p>拠点都市におけるスマートシティのネットワーク化推進 分野横断的に地域密着データを収集など活用する次世代スマートシティプラットフォームを整備 など</p> <p>地域のサステナビリティ確保のための遠隔・自動プロジェクトの推進 オンラインによる生活直結サービスなどの活用を支援 など</p> <p>インバウンド6千万をはじめとする国内外の需要の地方への呼び込み 観光ICTや放送コンテンツ、文化の海外展開支援、地域産品の販路開拓・拡大 など</p>	<p>社会変革に挑戦するテクノロジー・イノベーションの創出</p> <p>産業を支える技術開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究開発の推進 挑戦的なテーマ・目標設定、研究から社会実装までの一体的推進 ■ 革新的ネットワーク技術 大容量通信や自動最適制御を実現するネットワーク技術の開発 ■ 次世代AI技術 脳のメカニズムを応用した次世代人工知能技術の研究開発 ■ スマートワイヤレス工場と生産性革命 工場のワイヤレス化に向けた研究開発・国際標準化の推進による生産性革命 ■ 宇宙産業の振興 宇宙産業の国際競争力強化のための技術開発
<p>T トランスフォーム</p> <p>「未来をつかむxTECHプロジェクト」の推進 様々な産業分野で最先端技術の導入による産業構造のトランスフォームのテストを推進するプロジェクトを実施 など</p> <p>データ流通時代の競争力強化方策の検討 プラットフォーム、クラウドなどの分野における競争力強化の在り方を検討する場を設置 など</p> <p>人口減・高齢化をとらえた新市場の創出 シニアベンチャーやクラウドファンディングなど、高齢者の投資や消費を促すインセンティブ創出のためのモデル事業を推進 など</p> <p>世界の課題解決に貢献するICT海外展開・国際連携 防災、交通、医療などの地域発利活用モデルやIoT・AIなど新技術のICT海外展開 など</p>	<p>あらゆる産業に先端技術を導入する「xTECH-PJ」</p> <p>地域発・新技術を世界の70億人に展開する「先進ソリューション輸出-PJ」</p>

なお、前述(4ページ)した「未来デザインチーム」では、未来社会をイメージした小説「新時代家族～分断のはざまをつなぐ新たなキズナ～」を公表しています。ぜひ一度お読みください。
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/02tsushin01_04000517.html

多気町

「高校生レストランの町」から
人と地域が活気あふれる
「美食のまち、多気」へ



相可高等学校の調理クラブが運営する「まごの店」。テレビドラマ「高校生レストラン(平成23年放送)」のモデルにもなり、全国から注目を集めた。

食のまち 多気



多気町の主な特産品には、伊勢いも前川次郎柿、伊勢茶、松阪牛、しいたけ、みかん、あゆの甘露煮などがある。町内には地元の特産品を使ってこだわりの味を提供するレストランや日本料理店なども多い。



町自慢の食材や加工品を使ったスイーツを提供する店が多く、これらを紹介するパンフレット「TAKI SWEETS」も発行されている。



全長約30キロメートルに及ぶ立梅用水。毎年6月に開催される「あじさいまつり」では、用水路のポートくぐりが体験できる。



みんなの花火「みなびまつり」は、町民や企業からの協賛金で開催される。協賛金(500円)でもらえるステッカーは毎年デザインが変わる。



T a k i - c h o



五桂池ふるさと村にある「花と動物ふれあい広場」は、動物とのふれあいやエサやりが体験できる。地域でも人気のスポット。



北京五輪マウンテンバイクチーム監督がプロデュースした勢和の森マウンテンバイクコース。国際レースも開催されている。



スサノオノミコトがヤマタノオロチを退治した出雲神話を象徴化した長龍神事。毎年春分の日片野八柱神社で行われる。



弘法大師ゆかりの丹生大師(774年創建)は、「女人高野」として信仰を集めた。境内では四季折々の美しい風景が楽しめる。

多気町の由来には諸説あり、その一つに、「多気」は「多氣」と書き、「氣」には命という意味があるとする説があります。多くの命を育む場所、命を支える食べ物がたくさんとれる場所。それが「多気」というわけです。

東は伊勢平野の南端部、北を流れる櫛田川と南を流れる宮川の両岸には階段状の河岸段丘が見られます。年間を通じて気候は温暖で、古くから農業が行われてきました。

Profile

人口 | 14,722人(平成30年5月末日現在)
面積 | 103.06km²
URL | <http://www.town.taki.mie.jp/>

多気町は、平成18年に旧多気町と旧勢和町の合併により誕生した。松阪市と伊勢市の中間にあり、豊かな自然に恵まれながらも生活の利便性のよい町である。町内には町の都市計画の拠点である多気クリスタルタウンがあり、職住近隣型のまちづくりを展開している。



多面的な取組で元気なまちづくり
多気町は、12年前に1町1村が合併して生まれました。以来、「つながる力、ふれあう心」共に、健康で魅力あふれる町を目指した改革を実行中です。



多気町長 久保 行央

健康を考える上で欠かせないのが「食」に関する取組です。多気町は、「高校生レストランの町」として知られています。多気町は、平成18年に旧多気町と旧勢和町の合併により誕生した。松阪市と伊勢市の中間にあり、豊かな自然に恵まれながらも生活の利便性のよい町である。町内には町の都市計画の拠点である多気クリスタルタウンがあり、職住近隣型のまちづくりを展開している。



国内最大級の複合リゾート施設「アクアイグニス多気」の完成予定図。



着工予定地を視察。「見る」だけでなく、「作る」や「学ぶ」場など、体験型の施設の完成を目指す。

「美食のまち」として国内外に発信していくとともに、食科学大学の学生と相可高校の生徒との交流、地元特産品のPRなども積極的に行う予定です。

今後は、スペインの三ツ星レストランや、イタリア食科学大学の分校を「アクアイグニス多気」に誘致し、施設内に「リトル・サン・セバステイアン」を造り、多気町を「美食のまち」として国内外に発信していくとともに、食科学大学の学生と相可高校の生徒との交流、地元特産品のPRなども積極的に

伊勢自動車道、勢和多気インターチェンジ付近に建設予定の「アクアイグニス多気」は、民間企業で作る合同会社「三重故郷創生プロジェクト」と多気町が共に完成を目指す、食と健康をテーマにした国内最大級の複合型リゾート施設です。同施設と高速道路を直結させるスマートイ

ンターチェンジが民間負担で整備される点も、国内初の認定事例として注目されています。

名古屋ドーム24個分(約119ヘクタール)という広大な敷地に、宿泊施設や温浴施設、産直市場、葉膳レストランのほか、調理道具や食器などを販売する店や料理教室など、約30施設を展開する「アクアイグニス多気」は、2020年春にオープン予定です。年間約600万人の来場者を目指しています。

また、多気町は昨年、「世界の美食の町」で知られるスペイン・バスク地方の小さな町、サン・セバステイアン市と、「美食を通じて友好の証」と称した友好協定を締結。

薬草薬樹で体に優しく

多気町は、著名な本草学者の野呂元丈、西村広休の生誕の地としても知られています。

特に野呂元丈は、江戸幕府8代将軍徳川吉宗のお抱え医師として活躍しました。

もともと本草学と縁の深い多気町。町は、「アクアイグニス多気」の葉膳料理や薬草温浴施設が町のイメージアップにもつながると期待を寄せています。

本草学者野呂元丈



「調理の技術だけでなく、料理の基礎や言葉、礼儀も大事。その意味で『まごの店』はとて面白い」と顧問の村林新吾先生(前列中央)。

目指せ、食のスペシャリスト! 本気のクラブ活動『まごの店』

五桂池ふるさと村にある「まごの店」は、三重県立相可高等学校の調理クラブが運営するレストランです。「まごの店」という名前になったのは、ふるさと村内にもともと農産物直売所「おばあちゃんの店」があったから。

本格的なレストランとしてスタートしたのは多気町が今の建物を新築した平成17年からですが、開業は平成14年。当時は屋台形態での活動でしたが、開業以来、高校生が調理も経営も自分たちで行う「高校生レストラン」として話題を呼び、今でも県内外から多くの人がその味を楽しみにやっています。

ただし、すべてを高校生が行っているため、営業は土・日・



「まごの店」は生徒たちの発表の場。お客さまから見えるオープンキッチンでの作業には緊張感が漂う。



オープン前から行列ができ、開店と同時に満席状態に。メニューは花御膳など3種類。



レストラン「まごの店」。建物の設計アイデアは三重県内の工業高校の生徒たちから募集した。

祝日の昼間だけという、学生らしいユニークな経営。

現在は、地域の食材を活かしたメニュー開発や、メーカーとのコラボ商品の開発などを行うほか、国際料理コンクールの高中生全国大会で優勝したり、アジアや台湾の学校と多気町の食を通じた交流に貢献したりと、その活躍の場は海外まで広がっています。

高校生シェフに 聞きました!



多気町出身の山下結愛さん(右2年)と鎌田恵弥さん(左3年)。二人とも西洋料理の道を目指しているとか。

「料理の言葉や道具の名前もフランス語で覚えていきたい」と山下さん。鎌田さんも、「技術力を高めて、社会でも通用するように頑張りたい」と未来への意気込みは十分。

8月には、二人を含む生徒7名が東京の日本橋にあるレストラン「三重テラス」で、ふるさと納税の返礼としてコース料理をふるまいます。「返礼に選んでいただいたので、心を込めて料理を提供したい」と、笑顔で答えてくれました。

多気町を知る 3つの question

Q 多気町のことを学ぶなら?

「たきかレタ」がおすすめ!

町の大人や子どもから読み札の句を募集して作られたカルタ。遊びながら多気町の自然や文化、歴史を学ぶことができる。

Q 町でよく使う言葉を教えて!

「おいない」

「おいない」は伊勢地方の方言で、「おいで」や「お越しください」という意味。「まおいない(また来てください)」のように使われる。

Q このナゾの生物は何?

たかたかぼうず

丹生地域に伝わる、真っ黒で背が高く、のぼんとしたもののけ。ふれあいの森「勢山荘」で遭遇できるかも!

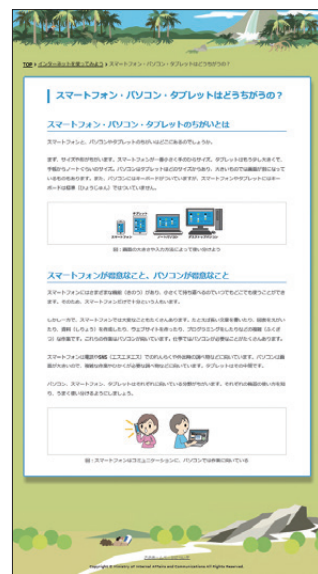
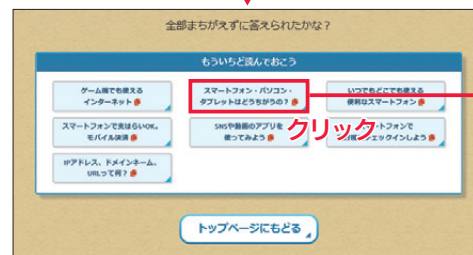
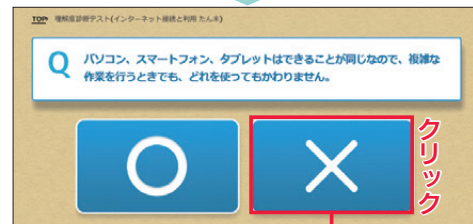
「情報通信白書 for Kids」サイトをリニューアルしました



マルチデバイス対応



理解度診断テスト(クイズ)を充実



総務省は、私たちの生活に不可欠な様々な情報通信について子どもたちに楽しみながら理解を深めてもらうため、「情報通信白書 for Kids」サイトを運用しています。

本サイトでは、インターネットやスマートフォンなどの情報通信メディアや機器でできること、仕組みや利用上の注意などについて理解を深めていただいたり、子どもたちが持つ情報通信に関する疑問へ

の答えを見つけていただくことができます。

近年の急速なICTの進展や子どもたちを取り巻くICT利用環境の変化に対応するため、総務省は本年4月4日、本サイトをリニューアルオープンしました。

もうすぐ夏休みが始まります。この機会に、リニューアルされた「情報通信白書 for Kids」サイトを親子でぜひ活用ください。

- リニューアルのポイント**
- サイトの内容を理解しやすいよう、暮らしを支える「インターネット」「インターネット」を使う「インターネット」の安心安全な使い方「インターネット」の活用4項目に整理。
 - 幅広い知識を楽しみながら身に付けられるよう、理解度クイズを充実。
 - パソコンやスマートフォンなどの使用端末に応じて表示を自動レイアウト。
 - 小学校高学年の児童をターゲットとした読みやすい文体。

サイトURLが変更になりました
<http://www.soumu.go.jp/hakusho-kids/>

お問い合わせ先
 総務省情報流通行政局情報通信政策課情報通信経済室
 Tel. 03-5253-5720
 E-mail. kids@soumu.go.jp

2020年に向けたテレワーク国民運動プロジェクト「テレワーク・デイズ」に参加しましょう!

参加団体の分類

実施団体
 参加人数などを問わずテレワークを実施またはトライアルを行う団体です。
 ※初参加の場合など、1日だけ、少人数の参加でもOKです。
 ※実施報告は不要です。

特別協力団体
 テレワークの実施に際し、①2日間以上実施、②7月24日(火)に100名以上実施、③効果測定(交通混雑緩和、消費支出の変化など)に協力可能な団体です。

応援団体
 テレワークに係る実施ノウハウ、ワークスペース、ソフトウェアなどを提供する団体です。
 ※実施団体または特別協力団体と併せて登録することが可能です。
 ※実施ノウハウの提供とは、自社のテレワーク導入の取組などについて、ホームページ、メールマガジン、講演などを通じて発信することを想定しています。

総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府では、東京都および関係団体と連携し、働き方改革の国民運動を展開しています。

昨年、2020年東京オリンピックの開会式にあたる7月24日を「テレワーク・デイ」と位置づけ、テレワークの全国一斉実施を呼びかけた結果、約950団体・6万3千人が参加し、国民運動として大きな一歩を踏み出しました。

本年は、7月23日(月)から7月27日(金)の間、各企業・団体の状況に応じて、7月24日+その他の計2日間以上を「テレワーク・デイズ」として実施します。

現在、下記「テレワーク・デイズ」ホームページにおいて、**参加企業・団体(左記参照)の登録を受け付けています。**

この機会に、テレワークしてみませんか?

テレワーク導入の主な効果

<p>生産性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> • テレワーク導入企業の労働生産性は導入していない企業の1.6倍(H28情報通信白書) • 2017年テレワーク・デイ当日の勤務時の生産性が通常時と比較して16%増加(実感値)(A社) 	<p>ワークライフバランスの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> • 平均残業時間44分/日削減、平均通勤時間97分/日削減(B社) • テレワーク利用者の約80%が「私生活の満足度」が向上したと回答(C社) 	<p>優秀な人材の確保・離職防止</p> <ul style="list-style-type: none"> • 女性離職率が5年で49%減少(D社) • 育児後の職場復帰率(2016年度実績)が96.5%に(E社) • 離職率減少28%→4%(F社)
<p>交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> • テレワーク・デイにおいて東京メトロ豊洲駅のピーク時間帯(8時台)の通勤量が10%削減 • テレワーク・デイ当日の出勤率が5%以上減少していたエリアが都内の複数(江東区・品川区・渋谷区・新宿区・中央区・千代田区・港区等)に存在 	<p>オフィスの消費電力量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> • テレワーク・デイにおいて回答があった全ての団体に実施日の消費電力量が減少(最大18%、平均7.1%削減) 	<p>コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> • 残業時間8.5時間/人月削減により年間3000万円削減、オフィス賃料1500万円/年削減(H社) • 1年で印刷枚数が約4割削減(I社)
<p>事業継続性の確保(BCP)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3.11東日本大震災の際に約85%の従業員がテレワークを活用(J社) • 熊本地震発生2日後から仕事を再開(K社) 		

参加登録先(「テレワーク・デイズ」ホームページ)
<https://teleworkdays.jp/>
 登録受付期間: 本年4月20日(金)~7月20日(金)



まずはやってみようテレワーク
 参加しよう「テレワーク・デイズ」!

戸籍謄本の提出が必要な手続が見直されます!

～行政評価局調査による改善例～

行政評価局調査とは?

総務省では、行政の制度・運営の見直しを図るため、政策の担当府省と異なる立場から、全国的規模の実地調査を行い、改善方を提示する行政評価局調査を実施しています。

申請者の手間とコストが軽減されます

行政手続の中には、本人確認などのため戸籍謄本(戸籍抄本を含む)の提出が必要な場合があります。戸籍謄本は住民票の写しと比べて交付手数料が高く、本籍地と住所地が異なる場合には、郵送による交付申請を行わなければならないなど、取得に手間がかかります。

このため、戸籍謄本に代えて住民票の写しの提出を認めてほしい、提出した戸籍謄本を返却してほしい(行政相談委員意見)といった要望がありました。

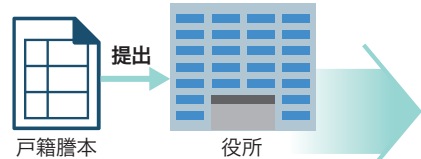
総務省行政評価局では「申請手続等の見直しに関する調査」を実施し、昨年3月に関係府省に対して勧告したところ、以下のとおり改善措置が講じられることになりました。

1 戸籍謄本の提出を住民票の写しでも可能に

(看護師免許の申請手続(年間約5万5千件)など40手続)

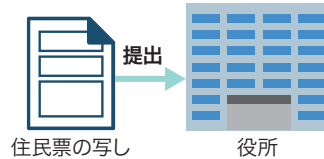
●手続の例

看護師



戸籍謄本を用意するのは面倒だな...

※氏名などの変更が無い場合



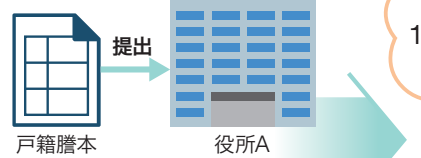
住民票の写しの準備だけでOKなんだね!

2 相続時に提出される戸籍謄本の返却

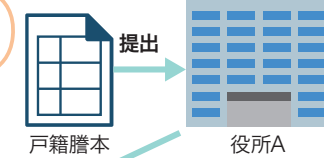
(相続税の申告手続(年間約10万5千件)など17手続)

●手続の例

戸籍謄本をいくつも準備するのはお金がかかるな...



戸籍謄本は1通だけ準備すればいいんだね!



返却された戸籍謄本、または戸籍謄本のコピーでの提出

総務省ホームページ(「申請手続等の見直しに関する調査」の勧告に対する改善措置の状況)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/000111991_0511.html

平成30年6月1日「新4K8K衛星放送開始半年前セレモニー」が開催されました



関係者によるフォトセッション



来賓挨拶を行う野田総務大臣

BSと東経110度CSによる4K放送・8K放送である「新4K8K衛星放送」が、本年12月から始まります。

この新しい放送の開始の半年前にあたる本年6月1日、東京の第一ホテル東京にて、「新4K8K衛星放送開始半年前セレモニー」が開催されました。



4K8K推進キャラクターの深田恭子さんを囲んで

野田総務大臣が来賓として登壇し、「すでに市販されている4Kテレビだけでは、新4K8K衛星放送を視聴できず、対応チューナーや、場合によってはアンテナ交換が必要になる。国民に混乱が生じないように、あらゆる手段での周知徹底、また視聴者の期待に応えられる4Kならではの魅力的なコンテンツの提供をお願いしたい」と挨拶しました。

また、主催者を代表して、(社)放送サービス高度化推進協会の福田理事長から、「テレビがお茶の間に回帰するという決意で12月を迎えたいし、さらには東京オリンピック・パラリンピックに向かっていきたい」との挨拶がありました。



電波の漏えいに関する留意点をまとめたリーフレット

衛星放送用テレビ受信設備の施工ガイドラインの策定

新4K8K衛星放送に対応したアンテナを設置する場合には、ブースターや分配器などの設備から電波が漏えいしないようにすることが必要です。

このため、総務省では、このようなアンテナを設置する場合の施工方法をまとめた「衛星放送用テレビ受信設備の施工ガイドライン」を公表しました。また、電波の漏えいを防ぐための留意点をまとめたリーフレットも作成されています。

新4K8K衛星放送に対応する受信設備を設置する際は、このガイドラインなどに従い、施工を行うことが大切です。

また、総務省では、対応するアンテナに交換する際、電波の漏えいをなくすために行う改修工事に対して、工事費の一部に助成金を交付する補助事業を行っています。詳しくは、下記コールセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

新4K8K衛星放送の電波漏洩対策コールセンター(ナビダイヤル:通話料視聴者負担)

Tel. 0570-048-068 ※運用時間は、平日9:00～17:00 ※一般電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

総務省「4K放送8K放送情報サイト」

http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/housou_suishin/4k8k_suishin.html



平成30年度「電波の日・情報通信月間」表彰・イベントが行われました

6月1日は「電波の日」です。また、毎年5月15日から6月15日は「情報通信月間」です。

総務省では、本年6月1日(金)に記念中央式典を開催し、電波利用または情報通信の発展に貢献した個人・団体や、デジタルコンテンツの今後の創作活動が期待される方々への表彰を行いました。



「電波の日」総務大臣表彰(個人・団体)(敬称略・五十音順)

- 個人**
- 佐々木 雄三 一般社団法人 日本コミュニティ放送協会 相談役
 - 松崎 陽子 仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科 教授
 - 和崎 信哉 一般社団法人 衛星放送協会 会長

- 団体**
- 一般社団法人 全国自動車無線連合会(会長:坂本 克己)
 - 無線LANビジネス推進連絡会(会長:北條 博史)

「情報通信月間」総務大臣表彰(個人・団体)(敬称略・五十音順)

- 個人**
- 相田 仁 東京大学大学院 工学系研究科 教授
 - ガマリエル・コルドバ フィリピン共和国 国家電気通信委員会 委員長
 - 是枝 伸彦 前 一般社団法人 テレコムサービス協会 会長
 - 高橋 修 大手家電流通協会 事務局長
 - 若宮 正子 特定非営利活動法人 ブロードバンドスクール協会 理事

- 団体**
- 会津若松市(市長:室井 照平)
 - 一般社団法人 全国携帯電話販売代理店協会(会長:竹岡 哲朗)
 - 株式会社 角川アスキー総合研究所(代表取締役社長:芳原 世幸)
 - 椎内市(市長:工藤 広)

「地域発デジタルコンテンツ」総務大臣奨励賞(敬称略)

- 椎内北星学園大学 豊富プロジェクト 「エソカンゾウの朕くまちへ」
- 尚綱学院大学 総合人間科学部表現文化学科 大野ゼミ 「里まち なとり ～海、山、街の恵み～」
- 真内 みずほ 「わたしが生きる町」
- 長野県長野西高等学校 放送班 「虹からの贈り物」
- 大阪市立九条南小学校6年 九条南セブン 「スマホとリアル」
- 川本 菜々美 「あるぼむ ～いつのことか、思い出してごらん～」
- 高松市立庵治第二小学校 「ハンセン病ってDo you know? ～Let's go 大島!～」
- 比嘉 菜々子 「やさいのつぶやき」

情報通信月間推進協議会会長表彰(個人・団体)(敬称略・五十音順)

- 志田 林三郎賞**
- 個人**
- 浅見 徹 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長

■情報通信功績賞

- 個人**
- 上原 哲太郎 立命館大学 情報理工学部 教授
 - 新保 史生 慶應義塾大学 総合政策学部 教授

- 団体**
- 一般社団法人 コード・フォー・ジャパン(代表理事:関 治之)
 - 株式会社 北國銀行(取締役頭取:安宅 建樹)



記念中央式典の様子



総務大臣表彰授与

■全国各地で開催された情報通信月間イベント
平成30年度の情報通信月間では、「ICTで つなげるひろがる 明るい社会」をテーマに、全国各地で情報通信に関する様々な行事が開催されました。

・5月20日(日) 大垣市情報工房

大垣市こどもICT講座が開催されました。市内の小中学生が参加し、簡単なプログラミングを覚えながら、コンピュータの中で自分が考えた世界を動かすことに挑戦しました。



世界にはばたく 総務省

Ministry of Internal Affairs and Communications

坂井総務副大臣のベトナムおよびミャンマーへの訪問



トランプ情報通信大臣との会談の様子(ベトナム)

坂井総務副大臣は、本年5月2日から5月3日までベトナムを、5月3日から5月5日までミャンマーを訪問しました。

ベトナムでは、5月3日にトランプ情報通信大臣と会談し、情報通信、郵便、放送などの分野における今後の協力関係の継続・強化について確認しました。

また、同日、総務省がベトナム情報通信省とともに主催した「Japan-Viet Nam Wireless Seminar」に出席し、主催者挨拶にて日本の電波システムのASEAN各国での活用を呼びかけるとともに、日本で開発されたマルチラレーションシステム(空港の航空機の位置を特定できるレーダーシステム)のフック国際空港での実証実験実施についての日本企業とベトナム航空管制機関との間での合意文書署名式に立ち会いました。

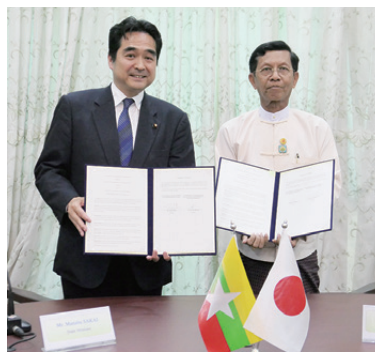
さらに、5月4日に日本企業が教育分野のICT利活用に係る実証実験を行う小学校および郵便分野における協力に関する覚書に基づく取組の一環として、日本郵便がコンサルティングを行ったハノイ郵便区分センターを視察し、それぞれ協力の進展や取組の成果などを確認しました。

ミャンマーの間では、郵便分野にお

ける協力に関する覚書に基づき、積極的に協力を推進してきましたが、同覚書が本年5月に期限を迎えることから、5月4日に、ター・ウー運輸・通信副大臣と新たな覚書文書の交換を行いました。また、同副大臣とミャンマーにおける郵便・通信およびサイバーセキュリティに関する協力などの進捗状況について意見交換を行い、今後の協力関係の強化について確認しました。

さらに、同日、ベトナム情報大臣との会談を行い、「Myanmar Radio and Television」の能力強化などについて意見交換を行い、今後の協力関係の継続・強化について確認しました。

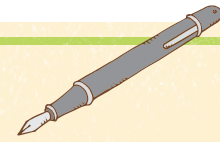
総務省では、ベトナム、ミャンマーをはじめとした他の多くの国とも、ICT分野における関係強化に引き続き取り組み、良好な関係を築いていくとともに、日本企業の海外展開を推進していきます。



ター・ウー運輸・通信副大臣と覚書文書の交換(ミャンマー)

編集後記

editorial note



地方のかがやきの取材のため、テレビドラマ「高校生レストラン」のモデルにもなった三重県立相可高校調理クラブへ行ってきました。

そこにはたくさんの夢と希望にあふれる生徒たちがいました。料理に取り組む真剣な瞳、夢を語る笑顔には一点の曇りもなく、こちらがますます見つけることができないうらやましい思いが伝わってきました。なによりも「料理が好き、料理の道に進みたい」という生徒たちの気持ちが表情、動き、服装、すべてから伝わってきました。

自分の好きなことや夢に真剣に取り組める環境や仲間―すべてを持つ生徒たちを前に、思わず自身の学生時代を省みて、「こんな高校生活を送れたら幸せだろうな」と羨ましく感じる私がありました。

生徒たちが放つ、まぶしいくらい希望のかがやきを感じ取りながら、おいしい料理を食べ、相可高校調理クラブが運営する「まごの店」を訪れてみてはいかがでしょう。

ドラマよりもさらに熱く、魅力的な世界を目の当たりにできるかもしれません。

(広報室 河端)

広報誌「総務省」についてのご意見・ご要望は、FAXまたは電子メールでお寄せください

FAX | 03-5253-5174 E-mail | kohoshi@soumu.go.jp



TELEWORK DAYS

テレワーク・デイズ 検索 🔍



働く、
を変える日

2018 7/23 月 24 火 25 水 26 木 27 金
(実施日)



テレワーク・デイズ

実施日：2018年7月23日(月)～27日(金)
主催：総務省/厚生労働省/経済産業省/国土交通省/内閣官房/内閣府
共催：東京都/一般社団法人日本経済団体連合会/一般社団法人日本テレワーク協会

